

もり よし さん ろく こう げん
森吉山麓高原

**再生
目標**

草地造成事業（昭和 40 年代）以前のブナ林等を再生し、クマゲラの生息に適した環境の拡大を目指す。

DATA

エリア：国指定森吉山鳥獣保護区
所在地：秋田県北秋田市
着手：H16

森吉山麓高原自然再生協議会

協議会事務局
秋田県 自然保護課、森林整備課
対象地域
秋田県北秋田市森吉山麓
(国指定森吉山鳥獣保護区)
設立日：H17.7.19
全体構想作成日：H18.3.31
実施計画作成日：H18.10.20（第一期）
H21.4.27
H23.3.23（第二期）
H28.3.18（第三期）
(R2.2 現在)



自然再生パネル展



「うまい！を明日へ！クマゲラの森再生プロジェクト」時の植樹風景

ブナをはじめとする落葉広葉樹林やクロベ、スギ、キタゴヨウなどの常緑針葉樹林が広がる森吉山麓高原周辺は、本州では数少ないクマゲラの繁殖地となっています。

しかし、昭和 40 年代から約 490ha のブナ林が牧草地に改変され、野生動植物の生息・生育域が分断・縮小されました。このため、周辺の森林生態系保護地域や「緑の回廊」と連続する広大な森林を形成し、豊かな自然環境の指標ともいえるクマゲラやそのほかの動物の生息と安定した繁殖に繋げるため、失われたブナを主体とする広葉樹林の再生に向けた取り組みを進めています。



営巣中のクマゲラ



自然再生事業の案内板



ベニイタヤ稚樹



島状植栽地域遠景
(茶色に見える部分が植栽箇所)

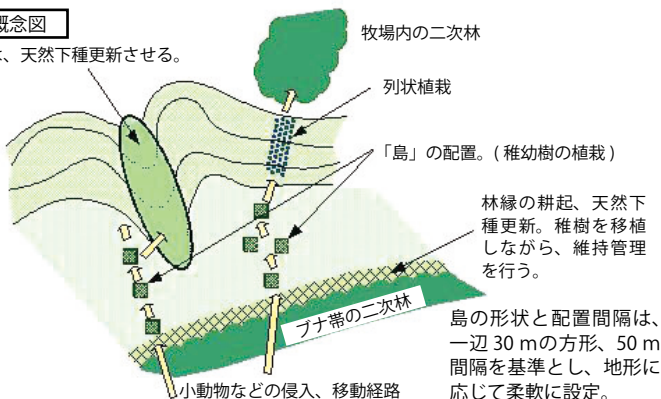
自然再生の手法

- ▶ ブナなどの広葉樹の植栽
- ▶ 多様な主体の参画による再生の推進

草地内で島状（列状）に土壤改良などを行い、そこにブナなどの植栽を実施します。将来、植栽木が生長して母樹となり、その母樹からの下種更新などにより樹林の連続性が確保されていくことで、コリドー（回廊）の役割を果たすことを期待します。

植栽概念図

沢すじは、天然下種更新させる。



関連ホームページ

秋田県ホームページ：<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/13413>

① ブナなどの広葉樹の植栽

面的な広がりが残っている区画を中心に、引き続き広葉樹を植栽します。植栽後は自然の推移に任せるとを原則とし、必要に応じて下刈りや補植などを検討します。

なお、自然再生に用いる苗や種子は、地域遺伝子資源保全の観点から事業地周辺由来のものとします。

② 多様な主体の参画による再生の推進

森林の再生には非常に長い期間を要することから、多様な主体の参画を求めながら再生の取り組みの継続を図ります。そのためには、保全意識の醸成が必要であり、現地での自然観察会とのタイアップによる植樹の実施や、企業等による CSR の活動の場としての展開を図ります。



8年経過の植栽地

モニタリングによる検証

植栽や天然下種更新補助作業を行っている箇所での活着率・生長量・獣害の有無・発生稚樹の状況などを調査し、また植栽木の枯死が認められた場合は、その原因を特定するよう努める。

植栽や天然下種更新補助作業の成果を評価し、それを基に実施方法の改善と併せ、実施計画の見直しに反映させる。